

第 17 回福島県双葉郡教育復興ビジョン推進協議会議事概要(公開部分のみ)

I. 開催日時および場所

日時：2019 年 2 月 13 日（水）14:30～16:30

場所：ビッグパレットふくしま マルチパーパスルーム 2（郡山市南 2-52）

II. 委員

別紙名簿の通り

III. 資料

- 議事次第・席次表
- 資料 1 福島県双葉郡教育復興ビジョン推進協議会委員名簿（2019/2/13 版）
- 資料 2 福島県双葉郡教育復興ビジョン推進協議会（第 16 回）議事概要
- 資料 3-1 取組実施報告
- 資料 3-2 取組実施報告 - 新聞等掲載記事
- 資料 4 広報誌「ふたばの教育」Vol.9 2019 年春号
- 資料 5 H31 年度ビジョン推進体制・取組一覧（案）
- 資料 6 H31 年度ビジョン実施計画（案）
- 資料 7 福島県双葉郡教育復興ビジョン推進計画書第二期（案）
- 資料 8 ふたば未来学園高校資料
- 資料 9 ふたば未来学園中学・高校パンフレット
- 資料 10 福島関連事業まとめ

IV. 議事内容

1. 開会

1) 開会挨拶（石井教育長 富岡町教育長）

- 震災後、間もなく 8 年。双葉郡の教育そのもの、町村の状況そのものが、いち早く戻ったところ、去年の 4 月に学校を再開したところ、まだ避難先にいるところの三層構造になっている。その中で共通点を見だし、復興推進を教育の中でどう実現していくかが課題。町村を越えた一貫した教育を探っていく必要がある

2) 自己紹介

2. 前回（第 16 回）議事概要確認

- （全会）承認

3. 議事

1) 今年度の各取組実施状況について

- 各取組における実行委員体制がさらにうまく機能していた。実行委員の前年度の経験が翌年度

の先生方に運営ノウハウとして引き継がれており、校種を超えた連携がさらに発展してきた

- ふるさと子どもサミットという、8町村の代表児童が1つのテーマで意見交換をした小学生ランチタイム交流企画「ふるさと子どもサミット」はふるさと創造学サミットでの新しい取組
- 子どもたちは様々なビジョンの取組を通じて他校の子どもたちとふれあい、交流を重ね、また次の取組で再会して絆を深めている。各町村の状況は異なるが、今後も改善の充実を図りながら、引き続き連携した取組を続けていきたい

(委員意見)

- 生徒の皆さんの発表レベルも上がっていた。双葉郡内の色々な方が一堂に会して絆を深めることはなかなか他ではできない貴重な機会
- 町村の状況は異なるが、児童生徒の人数が少ない状況は共通する部分。双葉という枠組みで、ビジョンのもとに子どもたちが集まって高め合う場は大変貴重。根幹の部分は維持しながらどう発展を遂げていくのか議論が必要

2) 各町村教育委員会の現状と課題

- (広野町) 児童生徒数は288名。幼小中でばらつきがあるものの、平均すると77%の子どもたちが戻ってきている。予算の関係でスクールバスが廃止となるが、町民バスや大型タクシーを活用してカバーしたい。コミュニティ不足で以前のような各地区での見守りができていないが、なんとかできないがPTAと相談している
- (楢葉町) 町で学校を再開して2年目。児童生徒は小中合わせて107名。中学校ではN a l y sという模擬会社を立ち上げ、社会教育との連携を進めている。まだ生活環境が落ち着いていない家庭も多く、課題を抱えている児童生徒もいるので引き続き加配の先生方、S Cの方々の充実をお願いしたい
- (川内村) こども園と小中合わせて103名。村に戻った人は約81%だが、戻った子どもは53%。子どもが戻らない現状で村の教育システムをどうすべきか、29年度から検討してきた。今後は、33年に4月に小中一貫校の開校を目指しており、コミュニティスクールの導入、教育施設の集約化・複合化も計画している
- (大熊町) 学校再開以降、児童生徒数は毎年半減してきている。4年後には町で学校を再開したいが、はたして子どもたちが来てくれるのか、来てもらうためにどうすればいいのかが最大の課題。例えば、恵まれない子どもたちの受け入れなど、斬新な考えも必要なのではないか
- (双葉町) 幼小中で計52名。うち、区域外就学が21名。近隣の小学校との交流活動も含め、地域と連携した教育活動を進めている。町では学校等の被害状況調査が最近終わったばかり。当時の学用品がそのままなので、丁寧な意向調査を進めながらやっていきたい。2020年にはJ R双葉駅が開設され、駅周辺の除染が進めば避難指示が一部解除となる。帰町イコール学校再開は状況的に難しいが、その下準備は進めていかねばならない
- (葛尾村) 村内で学校を再開して間もなく1年。少人数なので集団での学習活動が難しいが、近隣学校との合同授業やI C Tを活用した遠隔合同授業等進めている。葛尾村にある素晴らしいものを見つけ、それを力にし、学校も地域も復興に向けて取り組んでいくことができればよい
- (富岡町) 富岡校と三春校と合わせて46名。少人数であることをカバーするため、富岡校と三

春校のICTを活用した合同授業や、東京の小学校を訪問しての交流授業を行っている。また、地域の事業所等の方々に定期的に体育の授業に参加いただいたり、校内で働く大人の姿を見せる取組も進めている。今後は同世代の、横並びの学習をどう進めていくかが課題

- 個々人の学力の状況はどうか。また、不登校、家庭、就学援助率はどのような状況か
 - 就学援助については各町村、申請があればすべて援助している状況だが、大熊と双葉以外は今後ほぼ前の形に戻ってくるだろう
 - 不登校率については、不登校になったのでこちらの学校へ来たという子どももいる
 - 家庭の状況としては単身赴任の家庭も多い

3) 平成31年度推進体制・行事計画案

- これまでの振り返りを活かし、より改善・充実したものが展開できるよう、各取組をこれまでの形で継続する
- 交流会等の会場については今後も引き続き浜通りでの実施の検討を進める

(委員意見)

- Jヴィレッジやイノベーション・コースト構想に関わる研究施設なども一つの候補では
- 檜葉の総合体育館も近く完成する
- 距離的に大熊が一番遠くなるが、宿泊等の工夫も将来的には考えていく必要がある

4) 福島県立ふたば未来学園高校・併設中学校について

(1) ふたば未来学園高校活動報告

- 小中学校でのふるさと創造学で自分の地域の良さとか課題に向き合ってきた生徒たちが本校に入学し、未来創造探究で改めて自分の地域の課題解決プロジェクトを進めている。この1年もこうしたプロジェクトがさらに強く推進された
- 建設中の新しい校舎にはビジョンで掲げられた地域協働スペースが設けられる。カフェや図書館も併設する。日常的に地域の方が学校に自由に入出入りし、地域の課題解決のために活動する、未来をつくりだしていく場にしたい

(2) 併設中学校について

- 一般選抜の定員48名に対し、97名の志願者。うち、12名の双葉郡枠に30名の志願者。双葉郡枠12名、残り一般38名、スポーツ選抜10名、合計60名の合格となった。新1年生60名、猪苗代中から新2年生10名、新3年生8名、レスリングの転入生が新2年生に3名で、総勢81名でのスタートとなる
- 今後はJFAアカデミーの生徒も少しずつ戻ってくる予定。双葉郡の復興のシンボルであるふたば未来学園が今後、新たなステージに入る。今後もこれまで以上のご支援をお願いしたい
- 休校となっている郡内の5つの高校については、住民の帰還状況、小中学校の再開状況等を考慮しながら今後の在り方を検討していきたい

5) 第二期推進計画書策定について

(非公開)

6) その他

(1) 委員からの情報共有

- (矢野委員) 就学支援、教員加配、SC は従来どおりの文科省としての復興策だが、特に教員加配と SC については概算要求どおりとなっている。復興特会は 32 年度まで。その後どうするのかということ、県教委あるいは現地の市町村としっかりとすり合わせながら概算要求に臨んでいきたい
- (大沼理事) ビジョンが策定された 25 年 7 月の翌年度より双葉郡の皆様と一緒にこの仕事に関わらせていただいた。ふるさと創造学を核にして非常に素晴らしい取組が行われてきたと感じている。今後もビジョンの思いを受け継いでいく教員の取組の継承を大事に続けていっていただきたい。未来学園は双葉郡の高校であることを改めて認識いただき、8 町村と共に高校もしっかりつくっていききたい

(2) 今後の協議会開催予定

- 次年度も 2 回(4 月下旬～5 月中旬、12 月下旬から 1 月上旬)開催を予定

4. 閉会

以上